

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	なかよしクラブ			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 26日		～	令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 7日		～	令和8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5人ほどの少人数グループや、グループを合わせて10人ほどで活動したりと、子どもの実態や活動内容によって柔軟にグループ編成をしている	一人ひとりのペースを大事にする場面や、併行通園先を意識した少し多めの集団活動などグループを活かした取り組みを行えるようにしている	就学に向けてや大集団への移行を踏まえて、実際の併行通園先での過ごし方などを参考に活動の目標を設定できるようにしていきたい
2	作業療法士が常駐していることで、専門職による職員への指導や支援方法の共有ができること	活動内容で気になることや児の様子に応じた支援などを積極的に尋ねることで、子どもたちへの理解を深められるようにしている	専門職とのやり取りで子どもの理解を深めることができれば、それを言語化して保護者や支援者へ伝えていけるようにしたい
3	給食提供があることで、偏食や咀嚼の様子、そこからの発語などについても支援することができること	必要に応じて喫食ノートを作ることで、併行通園先や家庭での様子を知り、それぞれが共通して食事への支援ができるようにしている	給食室の調理師・栄養士らとも連携を図り、提供の仕方や支援方法を検討していきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同法人内の園行事含めて地域の方と関わる機会はあるが、回数としては少ない	どのような事業や取り組みを行っているか説明や理解を求めるための関わる場が少ない	ハロウィンイベントで地域の方のお宅へ行く行事を今年度は再開したので、少しずつ地域と関わる場を増やしていきたい
2	虐待防止委員会や感染対策委員会などと、普段の活動や支援とのつながりを意識して活かしたり考えたりすることが少ない	普段の業務に追われていることから、直接支援とは違う部分には意識が向きにくい	子どもの命や権利を守るために必要な内容であることの周知と、実際の場面を想定して考えることができるような事例等を交えながら、短い時間で共有が図れるようにしていきたい
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 なかよしクラブ

公表日 令和8年2月27日

利用児童数 16名

回収数 13名

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	2			大きく広く体が動かせスペースの確保があると思います。	事業所だけでなく、地域の公園や法人で管理する農園なども活用して活動スペースを確保しています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13					管理者、児発管、保育士、児童指導員、作業療法士等の有資格者がおりますので、研修を踏まえてより専門性を高めていきたいと思っています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12			1		適切な視覚支援と、子どもたちが活動しやすいような環境設定を心がけています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	13				特に衛生面で気になることはありません。	感染症等への対応を含めて、施設全体の消毒も行っております。	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13					学習会（なかよしタイム）へのご参加ありがとうございます。保護者の皆様に参加されやすいような工夫をしていきたいと思っています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13			2		わかりやすく、またどのような取り組みがあるのかイメージしやすいものなるよう工夫を続けていきたいと思っています。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13				親の意見もだしやすさを取りました。	アセスメントシートへの回答ありがとうございます。保護者の方のお気持ちに寄り添い、こどももまんなかに支援ができるよう考えていきたいと思っています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13			2		ガイドライン項目についてはわかりにくい部分もありますが、面談を通して今後も説明をさせていただきます。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13				説明されている通りです。	支援の方向性については面談等でも説明をさせていただいております。こどもの成長に伴って変化してくる部分もありますので、必要に応じて変更できるようにしていきます。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12			1	色々な場所で様々な経験をできているように思います。	身体を大きく動かすあそびを中心に取り組んでいます。設定されたあそびの中にも様々な要素が入っていますので、それがわかりやすくお示しできるよう工夫して参ります。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9				3	法人内の保育園の行事に参加する機会を今年度も作りました。来年度も同じような形で交流する機会を作っていきたいと思っています。	
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12				1	契約のときに聞きました。	契約時にそれぞれ説明をさせていただいております。話を内容が多く混乱させてしまうかもしれませんが、わかりやすくお示しできるように工夫していきます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13					説明されています。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13					一年通してプログラムされているので日程調整しやすかったです。	ペアトレへのご参加ありがとうございます。多くの方にご参加いただけるよう、日程や内容を工夫してまいります。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができてきていると思いますか。	12	1				連絡帳へ書き込むと返事をたくさんいただけます。	連絡帳やLINEでのやり取りありがとうございます。今後もお子様の発達支援のため、ご連絡させていただきます。
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13						お忙しい中、面談調整等ありがとうございます。定期的な面談以外でもご要望ありましたら随時面談を行っていきます。	
保護者 への 説明等	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13				されていると思います。		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	9	1		3	参加できませんでしたが、案内されています。	参加してくださった方々はお忙しい中ありがとうございます。親子で楽しめるイベントや活動内容については充実させていきたいと思っておりますので、よろしくお願致します。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	1			子供の発達診断相談した際に方法など詳しく教えて頂いた。	面談や相談など対面だけでなく電話やオンライン面談など様々な形で対応させていただければと思います。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13					子どもや保護者の皆様にわかりやすい形でお伝えできるよう今後も工夫していききたいと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1		1	ホームページ拝見しました。お便りがあります。	ホームページについても、ご利用にあたってなどの書類等でご案内させていただきたいと思っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	1				お便り等、承諾書の内容に基づいて個別対応させていただいています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			4	訓練が実施されているかわからないです。	なかよしだよりや、別な媒体を用いてマニュアルや訓練について広報していきたいと思っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			5		なかよしだよりや、別な媒体を用いて訓練の様子について広報していきたいと思っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12			1		契約時に説明をさせていただいていますが、定期的にわかりやすい形で説明できるよう工夫していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	1		1	連絡帳への記載がなく、帰宅後子どもから聞いて怪我の有無を確認し、その後施設に確認すると連絡を忘れていたなどが数回あったため。	小さなケガであっても報告漏れがないよう、業務日報にケガ報告の欄を作りました。職員それぞれが閲覧と確認できるようになっていますので、連絡漏れがないよう気を付けていきたいと思っています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13					とても楽しく通っています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	13					いつも当事業所の運営にご協力いただき、ありがとうございます。今後ともよろしく願い致します。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		なかよしクラブ				公表日	令和8年2月27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要に応じてカーテンやパーテーションで仕切っている。 状況に応じて、部屋を分けて活動を行っている。 グループ分けして少人数で活動できるようにしている。	子どもによってはカーテンで遊んでしまう児もいるため、実態に合わせて仕切り方を変えていきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		子どもの人数や年齢によって活動を合同にするなど、職員の配置を考えている。	小集団と個別と、子どもの実態にあわせて、どちらも対応できるように、職員体制や対応方法について考えていきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		トイレの踏み台を準備し、子どもが排泄時に安定した姿勢で排泄できるよう環境設定を行った。	トイレ内の空間が寒さがある為、寒さ対策を考えていきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		こまめな消毒や物を置かない等、整理整頓に努めた。	職員間の意識が高まり、整理整頓を努めることができています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じてパーテーションを活用したり、場から離れたりすることで、安心して過ごす事ができている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員会、活動の反省会 朝の打ち合わせ LINEワークスを活用した業務連絡。	日々の活動や子どもたちの様子等を全体で共有することで、一丸となって支援に取り組めるようにしていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		LINEを活用した業務や保護者会で聞いてみたいテーマ等をあげてもらい、それを元に保護者会を行っている。	蜜に連絡が取れることで保護者の満足感があがっているため、引き続きラインを活用した連絡等を続けていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝の職員会や活動の反省会にて意見交換している。	時間を設けることが難しい日があるので、短い時間でも言葉を交わしたり、LINEワークス等を活用して状況把握に努めたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		スタッフ派遣事業(やまびこ医療福祉センター)を活用した職員研修、公開療育参観による研修、発達支援センター等が主催する研修への参加、定期的開催する事業所内研修(15分間研修、感染予防対策訓練など)	事業所内の短時間研修の内容を充実させ、今後も継続していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		見た人に分かりやすく、イラストなども取り入れている。	毎年度、内容については更新できるようにしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		5領域に対応した独自のアセスメント票を使い、保護者と直接話をしながら支援計画の作成に努めている。	支援計画に落とし込むまでに時間がかかってしまうことがあるので、課題の整理や他の職員の意見ももらって取り組むようにしたい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		訪問支援員(作業療法士)や併行通園先(保育所、こども園等)の様子も考慮した上で連携して作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ポイントに絞った目標設定を行い、日々の活動でも目的を明確にして取り組んでいる。 反省会などで出た意見なども取り入れている。	個々の支援計画の内容について共有が浅い部分もあるので、職員間で話や説明をしていきたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		遠城寺発達検査や5領域に沿ったアセスメントシートを活用 子どもに応じて医療機関での発達検査		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画に項目を記載し、保護者にも説明を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子どもたちの様子などに応じて、グループリーダーを中心にチームで話し合いながら活動を組み立てている。	グループ内だけでなく、専門職などからの意見も取り入れることで、活動がより整理されるような体制をつくる。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		継続した活動の中で、少しずつ課題を変えていくことで内容の充実や発展をさせている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		身辺整理や食事、パニックになった時など子どもの様子に合わせて支援方法を変えている。	専門職が個別対応する時間などを設けることで、支援の幅を広げていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前に必ず打ち合わせをする時間を設けている。	グループの職員が入れ替わった際の共有が不十分なときがあるので注意したい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		反省会の時間を設ける。時間がない時も職員間でやりとりをするように心がけている。	翌日の打ち合わせの際に気づいた点を確認することがあるので、今後は活動後の時間に話し合いができるように努めたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		業務日誌や活動日誌等に記録し、ケース記録として振り返ることがある。	記録の効率化を図りたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者との面談によるモニタリング、関係機関への聞き取り、訪問支援員よの情報共有を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管、専門職、グループリーダーなどが参加する。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健センター やまびこ医療福祉センター 保育園、幼稚園、こども園、小学校等の連携	今後も必要に応じて連絡をとりあい、情報共有できるようにする
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		送迎の際や担当者会議を通じて、情報共有を行っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前に各学校ごとに個別に引継ぎを行っている。学校見学について保護者に説明し、引率もやっている。	夢すこやかファイルとの運動と活用について
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	医療機関の専門職による指導支援や法人内の作業療法士による指導支援を受けている センター主催の研修への参加	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		同法人内での行事（人形劇・芋掘り）への参加	事業所間で話し合いを行い、地域のこどもたちとかわりの場を設けるようにしていく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳、LINEの活用 必要に応じて面談や専門支援員による発達相談の案内を行っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年6回の内容でペアレントトレーニング実施 定期的な保護者会（ながよしタイム）の開催		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や変更があった場合、説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		相談支援とも連携しながら、こどもの様子や保護者の意向について丁寧に聞き取りを行っている。 就学やその先のことまで触れながら、その子にとってよりよい支援が行えるよう話している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		モニタリングやアセスメントも踏まえながら、支援の方向性について同意を得た上で交付している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳でのやり取りやLINEを使ってのやりとりを経て、必要に応じて専門支援員による発達相談を行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加型の親子のつどい（満足など）を行ったり、学習会と茶話会をセットにした「なかよしタイム」を開催している	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談支援とも連携を図りながら対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月1回「なかよしだより」発行	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		項目ごとに分けた個人情報承諾書に基づき個別に対応している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡帳やLINEの活用。LINEの場合は写真や動画も活用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年間計画の段階で予定に入れている。保護者には契約時に災害伝言ダイヤルや避難場所の説明をしている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		災害伝言ダイヤルや避難場所については契約時に必ず伝えている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害訓練（火災・水害・地震）を定期的に行っている。職員の安否確認の訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		必要な場合にはてんかん対応承諾書を使用 児童票やアセスメントにて確認	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		給食職員と連携して対応。 マニュアルを作成し、共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		避難訓練やBCPの内容に関連して訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害伝言ダイヤルの案内 緊急連絡先の確認	BCPに基づく安否確認等について保護者向けの訓練を行ってほしい
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例があった場合はすぐに共有、記録している。 法人内の事例についても共有する体制をとっている。	記録は続けているが事例集とはなっていない 委員会で新書式への移行を検討中
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修や事業所内の研修にて機会を確保している。	チェックリスト等を使用し、虐待について定期的に考える機会を設けてほしい
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		個別支援計画にも注意書きを記載、必要な場合には保護者に相談の上、支援計画に記載すると説明を行っている。	身体拘束マニュアルの内容について検証し、更新してほしい。